

## 動物舎及び動物の管理について

### 1 動物舎関連施設一覧

施設名	部屋数	面積(m <sup>2</sup> )
動物舎	12	490.55
救護舎	3	132.00
ポニー舎	1	340.52
鹿舎	1	9.00
ミーアキャット・リスザル舎	4	65.14
牛・豚舎	4	88.00

この他に、角馬場（調教・各種教室実施場所）や引き馬コースがあります。

### 2 飼育動物の種類

【展示コーナー】常時20種以上展示に供すること。（30種以上が望ましい）

リスザル・ハイラックス・シマリス・ニホンジカ・牛・豚・ジウシマツ・ブンチョウ・クジャクバト・クジャク・ギンケイ・キンイロキンケイ・ニホンキジ・ウズラ・ジュズカケバト・キバタン・ウスユキバト・ツクシガモ・オシドリ・シロブンチョウ・セキセイインコ・オカメインコ・ベニコンゴウインコ・ルリコンゴウインコ・ミーアキャット・ヒメウズラ・コジュケイ・チャボ・キンケイ・ウコッケイ・コモンマーモセット・ケヅメリクガメ・ドウバネインコ 等

【ふれあい動物広場コーナー】常時5種以上配置すること。

ヤクシマヤギ・シバヤギ・ウサギ・モルモット・コリデール・サフォーク

【ポニー乗馬場】ポニー乗馬等の業務実施に不足ない頭数を配置すること。

指定管理者は、上記飼育動物の種類等について、市と協議の上これを変更することができる。

ポニー及び市の備品動物以外については、指定管理者の負担とする。

### 3 動物の飼育管理

（1）リスザル・ハイラックス・ミーアキャット

ア 獣舎内の清掃は毎日行うものとし、水洗いを原則とする。

イ 放養場の清掃は毎日行うものとし、適時水洗いをする。

- ウ 給餌は毎日1回動物の習性に合わせた時間に行う。
- エ 利用者の観察しやすい展示を心がける。
- オ 必要に応じ獣舎の消毒を行う。年2回以上
- カ 病気予防のため医師の指示により必要な投薬・注射等を行う。
- キ 毎日動物の観察を行う。

(2) 鳥類

- ア バードケージ内及び禽舎内の清掃は毎日行う。
- イ 適時砂や土の入れ替えを行う。
- ウ 給餌は常時給餌とする。
- エ 適時バードケージ内及び禽舎内の消毒を行う。
- オ 病気予防のため、獣医師の指示により必要な投薬を行う。

(3) シマリス

- ア 獣舎内の清掃は毎日行う。
- イ 給餌は常時給餌とする。
- ウ 適時獣舎内の消毒を行う。

(4) ウサギ・モルモット

- ア ケージの清掃は毎日行うものとし、適時水洗い、殺菌、消毒を行う。
- イ 給餌は常時給餌とする。
- ウ ウサギ・モルモット舎の整理、整頓に努める。
- エ ウサギ・モルモットの爪切りをする。
- オ 皮膚病などの病気のチェックを毎日行う。

(5) ヤギ・ヒツジ

- ア 獣舎内の清掃は毎日行う。
- イ 通路・放養場の清掃は適時行い、利用者が不快にならないようにする。
- ウ 給餌は朝夕2回とする。
- エ ヤギの除角をする。
- オ 適時獣舎の消毒を行う。年2回以上

(6) ポニー

- ア 厩舎内の清掃は毎日行う。
- イ 給餌は朝夕2回とする。
- ウ 通路、馬繋場、馬場は随時清掃をする。
- エ 適時厩舎の消毒を行う。年1回以上。
- オ 健康管理上、又利用者の不快防止のため、常に清潔にすること。
- カ 健康管理のため随時運動をし、保安上の調教も合わせて行うこと。
- キ 使用後は蹄の手入れ、馬体の手入れを十分に行うこと。
- ク 定期的に検温し、又、予防注射・検査を受け、健康管理に努める。

( 7 ) その他

- ア 獣舎内の清掃は毎日行う。
- イ 通路・放養場の清掃は適時行い、利用者が不快にならないようにする。
- ウ 給餌は朝夕 2 回とする。
- エ 適時獣舎の消毒を行う。年 2 回以上
- オ 適時飼育動物にあった対応をすること。

4 その他の作業

- ( 1 ) 場内の清掃は休場日を除き、原則として毎日行う。
- ( 2 ) 建物及び施設の小破修繕は必要な都度行う。
- ( 3 ) 場内で発生した塵芥汚物等は、衛生管理に注意し、適切に処理を行う。
- ( 4 ) 飼育動物に重大な異常が発生した場合は、獣医師等に連絡する等適切な処置を行うこと。
- ( 5 ) 動物飼育記録を備え、毎日動物の異常等を記録する。

5 人員配置について

専門的な技術、経験を有する者（動物を飼育展示する施設での飼育管理経験を 5 年以上有する者など）が複数配置されているか。